



先進地紹介

都市部と村部が持続して歩いて暮らせる健幸都市の実現を目指して

～新潟県見附市～

つくばみらい市 都市建設部 都市計画課 主事 松本 早智枝

はじめに

平成30年8月7日、8日の2日間、茨城県都市計画協会主催の先進地視察に参加しました。

ここでは、第1回コンパクトシティ大賞（国土交通大臣表彰）、第5回プラチナ大賞（総務大臣賞）を受賞した新潟県見附市の「スマートウェルネスみつけ」の実現に向けた取組みについて紹介します。

見附市の概要

新潟県の中心に位置し、人口は約4万人、人口に対する高齢化率は31.3%と全国的にみられる高齢化が進んでいる都市です。

市民の高齢化と健康に対する課題

高齢化に向けた健康施策として、健康運動教室などを実施しましたが、参加者は年間約1,400人から伸び悩み、市民参加を底上げする施策を模索することになりました。

参加者数の伸び悩みの原因を探るため、30歳～70歳代の市民を対象に、健康に対する意識調査を行った結果、65%の方が継続的な運動の未実施者であり、その一因として、自家用車への依存度が高いことが挙げられました。

このため、市は、普段の生活で自然と必要な運動量が満たされるまちづくりとして、『歩いて暮らせる Smart Wellness City (SWC) [健幸都市]』を目指します。

スマートウェルネスシティ実現に向けた施策

市は、まちづくりの方向性を担保するために「健幸に関する条例」（自律的に歩くことを基本としたまちづくりを目指した条例）の制定や「健幸に関する計画」を策定しました。これらにより、行政としてのまちづくりの継続性が確保されました。

条例・計画を制定・策定後、市は、社会参加（外出）できる場づくりを進めました。

【ハード面の支援（人の交流拠点・外出の目的地の整備）】

◆ネーブルみつけ（市民交流センター）

撤退したスーパーマーケット（10年近く空き店舗）を市が購入・改修し、市民交流センターとしてオープンさせました。

センター内の“いきいき健康づくりセンター”には、ジム用運動器具が設置され、各個人がネットを使用し運

動量を確認できるe-wellnessシステムが導入されています（筑波大学が支援）。視察当日（平日）は、多くの方が利用していました。

また、センター内では、大勢のお年寄り（男性）が囲碁や将棋、子供たちが卓球を楽しむ姿も見られるなど、賑わいのある交流の場となっていました。



いきいき健康づくりセンター



喫茶・市民交流サロン

◆ギャラリーみつけ（市民ギャラリー）

旧法務局をリノベーションし、年間約50万人が利用する賑わいのある複合施設です。

「ギャラリーにいけば何か面白いことをやっている」というコンセプトのもと、仕事帰りでも立ち寄れる拠点として、夜10時まで開館しています。



美術・工芸教室のワークショップ、講演、座談会の実施。市民の作品を展示。ラウンジ・喫茶コーナーもあります。

◆道の駅 パティオにいがた

【コンセプト】

市民が繰り返し訪れたいくなる道の駅
何時間でも滞在できる「癒しの空間」の道の駅

<4つの機能>

- 1 防災拠点（農産物直売所、農家レストラン、みんなの広場〔災害時：炊き出し、ボランティア野営地、ヘリポートなどで利用〕）
- 2 健幸づくりの拠点（ストレッチ器具の設置、サイクリングロードの整備）
- 3 地消地産の拠点（農産物直売所、農家レストラン）
- 4 交流の拠点（デイキャンプや各種イベントの実施）

<その他>

- ・日本トイレ大賞（国土交通大臣賞）を受賞
- ・指定管理者制度の活用（公募条件が特徴的）

◆みつけイングリッシュガーデン （市民ボランティア参加型の公園）

【コンセプト】

①幅広い世代や分野の人々が集い、交流が生まれる公園



- ②将来にわたり市民ぐるみで管理運営していく公園
- ③広く市内外に発信できる個性と魅力を持ち合わせた公園

悪条件（工業団地，都市排水路脇，新幹線下，埋立土壌など）の場所でしたが，まちの真ん中の緑の空間，癒しの場として英国に習った公園を整備しました。日常の植栽管理は，ほぼ公園サポーターにお任せ。年間約6万ポットを生産。ガーデンへの植栽のほか，市内の小中学校や公共施設等に配布しています。



◆ウェルネスタウンみつけ

コンセプト：「住まい」・「健康」・「交流」

市の施策を具体化した住宅地であり，圃場整備事業に伴い取得した市有地4.5haを活用（74区画）。

<特徴>

- ①無電柱化の街並み（全国初低コスト手法無電柱化）
- ②最大10mのプロムナード
- ③公共用地が51%

等がポイント。また，思わず歩きたくなる，交流が生まれるまちづくりを目指しており，車の運転手に歩行者優先を認識させるため，路面表示やポールを設置などによる工夫をしています。



道路の状況（ポール，外側線）



小川のあるプロムナード

【ソフト面の支援（生きがい・社会貢献）】

◆地域コミュニティ組織の設立（市内11地域：市内全域人口100%カバー 集約区域外）

<行政からコミュニティへの支援>

- 活動拠点の設置（専属職員も配置）。
- 活動資金（「ふるさとづくり活動交付金」を交付）
用途を地域に委ねた自由度の高い活動資金（均等割20万円，人口割200円/人）。
- コミュニティワゴンの貸与
運行はコミュニティ組織。月額2万円まで燃料費支給。

◆悠々ライフ

コンセプト：頑張らない，競わない，出入りが自由

市民が企画・運営する生きがいづくり・仲間づくり
市民の仕掛け人が多彩なメニューで交流促進

◆ナチュラルガーデンクラブ

イングリッシュガーデンの日常管理

◆健康サポートクラブ

■立地適正化計画の検討状況

◆居住誘導区域の設定（検討中）

市街地内に，新たに居住する場合や住み替えを考える際に，歩いて暮らすことが可能で安心して居住可能な区域の目安として設定。

◆地域コミュニティゾーンの設定（検討中）

市街化区域外にも，生活圈維持を図るため，居住誘導区域と同様の機能を持つ，地域コミュニティゾーンを設定。また，詳細な区域設定により，市街地や他市からの子育て世代等の居住誘導を図るためのインセンティブを設定。



■コンパクトシティの効果

介護認定率の低さがH22年から3年連続全国1位となり，後期高齢者医療費も抑制傾向にあることが確認されました（高齢者の介護費用：年間5.1億円削減傾向 [H29.6 国交省試算]）。

市街地に生活サービス施設を集約させる拠点市街地ゾーンを3地区設定すると共に，公共交通の利便性を高めることで過度に自家用車に依存せず，歩いて暮らせるまちづくりを目指した効果が着実に出ていました。

■おわりに

今回視察した見附市は，市街地へ出掛けたくなるまちづくりを進めると共に，元々ある集落をつなげる交通網を充実させている点が大変参考になりました。

また，健康増進の観点から自然と歩くことをテーマにしたように，単純に利便性を考えるのではなく，市民の方々の意見や市民の健康を第一とし，終始一貫した政策により，より良いまちづくりができるのではないかと感じる視察でした。今後の見附市のまちづくりの取り組みに期待すると共に，注視していきたいと考えております。